

策定経過

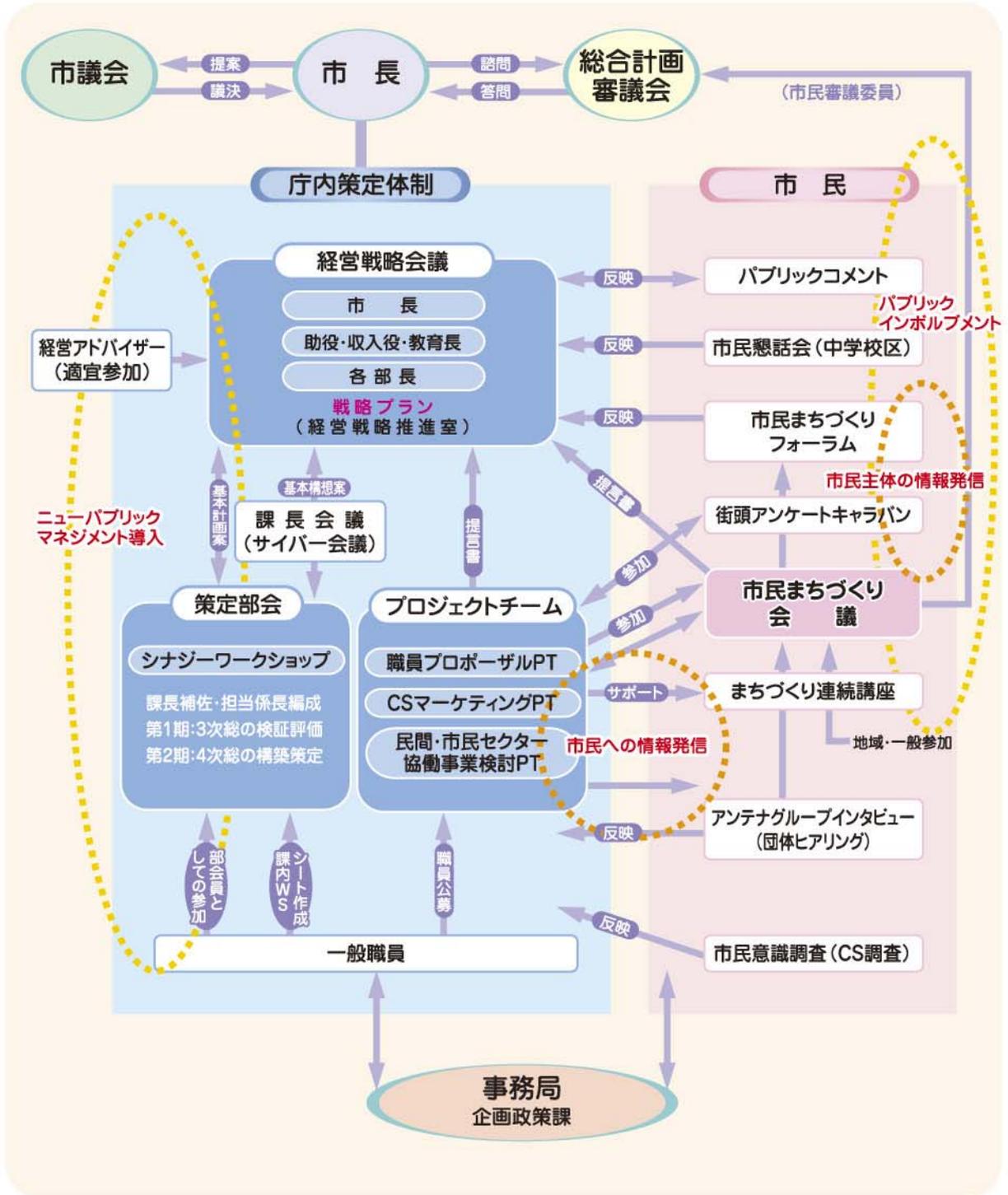
平成15年	
3月14日	策定に向けた取組み基本方針「キックオフフレーム」を策定
5月23日	プロポーザル選考により調査研究機関を特定
7月15日	総合計画策定研修会「キックオフミーティング」を開催
7月23日	合同策定部会第1回シナジーワークショップ(第1期)を開催
7月29日	合同策定部会第2回シナジーワークショップ 以降第1部会4回、第2部会7回、第3部会7回の部会開催
8月12日	基礎調査「アンテナグループインタビュー」開始(16団体)
9月26日	旧計画策定検証シート全課ヒアリング
10月29日	第1期プロジェクトチーム(2チーム編成)設置、研修会(外部NPO講師による講演、ワークショップによる課題抽出) 以降「職員プロポーザルプロジェクトチーム」は36回、「民間・市民セクター協働事業検討プロジェクトチーム」は20回の検討会議を開催
11月6日	プロジェクトチーム電子会議室開設
12月16日	プロジェクトチーム視察研修(高浜市総合サービス株式会社)
12月24日	プロジェクトチーム合同研修(市内経済団体との意見交換)
平成16年	
1月6日	プロジェクトチーム合同研修(名古屋市業務改善運動)
1月22日	プロジェクトチーム視察研修(アダプトプログラム)
1月26日	管理職職員研修会「トワイライト講座」開講(講師 石原俊彦氏)
1月28日	市民意識調査実施(18以上3,000人を対象)
2月9日	「トワイライト講座」第2講開講(講師 今川晃氏)
2月13日	合同策定部会シナジーワークショップ第2ステージ開催(事業実績の分析と成果指標の設定)以降各1回の部会開催
2月19日	プロジェクトチーム視察研修(知多地域NPO活動)
2月24日	プロジェクトチーム街頭インタビュー実施(前後駅、ユニー豊明店)
3月5日	プロジェクトチーム合同研修
3月11日	プロジェクトチーム視察研修(群馬県太田市・埼玉県志木市)
3月16日	「トワイライト講座」第3講開講(講師 梅田次郎氏)
4月1日	機構改革による全組織の再編、経営戦略会議、戦略推進室の設置
4月19日	第1回経営戦略会議(市民意識調査結果分析、プロジェクトチーム提言)
5月21日	議会全員協議会(策定経過及び予定)
6月5日	「まちづくり連続講座」第1講開講(講師 岸裕司氏)
6月19日	「まちづくり連続講座」第2講開講(講師 藤井絢子氏・浜島昭二氏)
7月3日	「まちづくり連続講座」第3講開講(講師 濱田和枝氏・後藤一明氏)
7月6日	課長会議電子会議室「サイバー課長会議」開設(現状と課題の整理、主要課題、施策達成状況と改善方針)
7月8日	第2回経営戦略会議 (第1期シナジーワークショップ成果、第1期プロジェクトチーム成果、計画骨子)
7月9日	課長会議
7月17日	「まちづくり連続講座」第4講開講(講師 林秀雄氏・稲垣祐子氏)
7月20日	第2期プロジェクトチーム(3チーム編成)設置、研修会以降「職員プロポーザルプロジェクトチーム」は58回、「CSマーケティングプロジェクトチーム」は72回、「民間・市民セクター協働事業検討プロジェクトチーム」は36回の検討会議を開催
7月21日	合同策定部会第1回シナジーワークショップ(第2期)を開催以降第1部会15回、第2部会20回、第3部会15回、第4部会16回、第5部会15回の部会開催
7月22日	シナジーワークショップ電子会議室開設
7月31日	「まちづくり連続講座」第5講開講(講師 延藤安弘氏)
8月4日	プロジェクトチーム研修(愛知県地域振興課職員を招き構造改革特区学習会)

8月11日	プロジェクトチーム視察研修(豊田市役所他窓口CS向上)
9月2日	プロジェクトチーム視察研修(JRA中京競馬場)
9月9日	プロジェクトチーム視察研修(愛知豊明花き卸売流通共同組合)
9月10日	プロジェクトチーム視察研修(ホシザキ電機株式会社)
9月11日	第1回「市民まちづくり会議」
9月14日	合同策定部会第2回シナジーワークショップ(第2期)を開催
9月22日	各課ワークショップを開催 (以降全課にて新施策構築のための課題と目標の抽出を実施)
9月30日	第6回経営戦略会議(重要政策プラン)
10月2日	第2回「市民まちづくり会議」
10月23日	プロジェクトチーム視察研修(興和精密工業QC活動)
10月25日	第7回経営戦略会議(基本構想素案)
10月30日	第3回「市民まちづくり会議」
11月12日	第8回経営戦略会議 (プロジェクトチーム活動報告及び重要政策)
11月13日	第4回「市民まちづくり会議」
11月22日	議会全員協議会(策定経過進捗報告)
11月27日	第5回「市民まちづくり会議」
12月6日	プロジェクトチーム視察研修(有機循環推進事業)
12月13日	第9回経営戦略会議(重要政策、基本構想素案)
12月22日	プロジェクトチーム視察研修(名古屋市業務改善運動)

平成17年

1月9日	プロジェクトチーム街頭インタビューキャラバン(二村山、成人式、前後駅、ユニー豊明店、老人福祉センター)
1月18日	プロジェクトチーム視察研修(マリオットアソシアホテル)
1月27日	第1回総合計画審議会
1月29日	市民まちづくりフォーラム
2月8日	プロジェクトチーム視察研修(OJTソリューションズ)
2月18日	プロジェクトチーム視察研修(尼崎市業務改善運動)
3月4日	第10回経営戦略会議(重要政策、基本構想素案)
3月16日	プロジェクトチーム研修(ビジネススクール)
4月11日	第11回経営戦略会議(基本構想素案、市民提案プラン)
4月18日	第12回経営戦略会議(プロジェクトチーム提言)
4月19日	第2回総合計画審議会(諮問)
4月25日	第13回経営戦略会議(プロジェクトチーム提言)
5月18日	第15回経営戦略会議(基本計画素案)
5月23日	第3回総合計画審議会
6月15日	第16回経営戦略会議(基本計画素案)
6月18日	市民懇話会(畜掛中学校区・栄中学校区)
6月19日	市民懇話会(豊明中学校区)
6月24日	第4回総合計画審議会
7月1日	パブリックコメント(1ヶ月間)
7月11日	第17回経営戦略会議(基本計画素案)
7月19日	第5回総合計画審議会
8月1日	第18回経営戦略会議(基本計画素案)
8月12日	第6回総合計画審議会
8月22日	第19回経営戦略会議(基本計画素案)
8月29日	第7回総合計画審議会
9月15日	第20回経営戦略会議 (基本計画素案、パブリックコメント・市民懇話会結果)
9月27日	第8回総合計画審議会
9月30日	議会全員協議会(基本計画素案概要)
10月12日	第21回経営戦略会議(基本計画素案)
10月19日	第9回総合計画審議会
10月21日	議会全員協議会(基本計画素案概要)
10月24日	第22回経営戦略会議(全体にわたる調整)
11月10日	第10回総合計画審議会(答申)
11月29日	第4次総合計画基本構想市議会案上程
12月16日	第4次総合計画基本構想市議会議決

策定体制



市民参加による策定

1 アンテナグループインタビュー

第4次豊明市総合計画の策定に際し、ホームページや新聞などで応募いただいた団体を含め、市内16の団体からまちづくりに関するご意見をお聞きしました。

〈調査期間〉 2003年8月12日(火)～2003年9月12日(金)

〈調査対象団体〉

豊明市商工会	沓掛の未来を語る会	豊明市体育協会
(社)豊明青年会議所	豊明ライオンズクラブ	子育て支援ねっと ひまわりっこ
豊明市国際交流協会	豊明市連合婦人会	東名古屋医師会豊明支部
(特)環境研究所豊明	JAあいち尾東	愛豊歯科医師会豊明支部
豊明市文化協会	豊明市障害者福祉団体連合会	豊明市薬剤師会
愛知県中小企業家同友会豊明支部		

2 市民意識調査

現在の豊明市の住みやすさや今後の定住意向、市による様々な施策の重要度及び満足度などを把握し、本計画に反映するため、市民を対象にアンケート調査を実施しました。

〈調査期間〉 2004年1月28日(水)～2004年2月20日(金)

〈調査対象〉 豊明市住民基本台帳の18歳以上から3,000名を無作為抽出

〈調査方法〉 郵送配布・郵送回収

〈回収状況〉 回収数 1,335 有効回収数 1,328 有効回収率 44.3%

〈結果の公表〉 豊明市ホームページ、広報とよあけで公表(概要はP.13参照)

3 まちづくり連続講座

市民まちづくり会議の開催を前に、各地で実践されている市民主体のまちづくり事例を学ぶため、全5回の連続講座を開催しました。

第1回	2004年6月5日(土) 午後1時30分 市役所会議室	■実践から学ぶ市民が主役のまちづくり活動 「学校との連携による新しい地域づくり」 千葉県習志野市秋津コミュニティ 岸 裕司 氏
第2回	2004年6月19日(土) 午後1時30分 市役所会議室	■私たちができる環境活動とは 「資源循環社会をめざす私たちの実践」 滋賀県環境生活協同組合 理事長 藤井 絢子 氏 豊明市内での実践報告 浜島 昭二 氏
第3回	2004年7月3日(土) 午後1時30分 市役所会議室	■ご近所の力を地域づくりに生かす 「地域の高齢者は地域で支える」 特定非営利活動法人あかり 事務局長 濱田 和枝 氏 「地域の安全安心は自らの手で」 春日井市安全なまちづくり協議会 安全安心まちづくりポニター 後藤 一明 氏
第4回	2004年7月17日(土) 午後1時30分 市役所会議室	■地域で子どもを守り・育むために 「私たちは子どものために何ができるか」 岐阜聖徳学園短期大学 教授 林 秀雄 氏 豊明市内での実践報告 稲垣 祐子 氏
第5回	2004年7月31日(土) 午後1時30分 市役所会議室	■楽しい市民が主役のまちづくり 「まちづくりを楽しむ極意」 特定非営利活動法人まの縁側育み隊 代表 延藤 安弘 氏

4 市民まちづくり会議・市民まちづくりフォーラム

市民と行政の協働による地域づくりを目指すため、多様な世代・職業の市民が参画する市民まちづくり会議を開催しました。市民まちづくり会議では、全5回のワークショップに加え各部会単位でのオプション会議を通して、市民が担える協働の取り組みを「市民提案プラン」として取りまとめました。

	開催日	内 容
準備会	2004年 8月21日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ まちづくり連続講座の振り返り ▶ 市民まちづくり会議プログラムの概略について
第1回	2004年 9月11日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 豊明市のいい点・悪い点を探す ▶ 各分野における課題を整理する
第2回	2004年10月 2日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 課題に対する活動・取り組みアイデアのメニューを出し合う ▶ 活動・取り組みアイデアを具体化するためにもっと調べることを整理する
第3回	2004年10月30日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ それぞれが情報を持ち寄って提案を具体化するための準備をする
第4回	2004年11月13日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 提案プランの構成の検討と各テーマの執筆担当者を決める ▶ 提案の具体化のための意見交換をする
第5回	2004年11月27日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 提案プランをとりまとめる ▶ 全体会での各部会の提案概要を発表し合う

また、「市民提案プラン」を市民に対して発信するため、「市民まちづくりフォーラム」を開催しました。

〈開催日〉 2005年1月29日(土)午後1時30分～(豊明勤労会館にて)

1	開 会	市長あいさつ
2	オープニング	「市民協働元年」を宣言!
3	全体会	3つの部会の提案内容を発表
4	分科会	部会に分かれ協働の実践に向けて討議
5	閉 会	分科会の成果を報告し合い閉会



市民提案プラン 各部会の提案(要約)

第1部会

有機資源の循環による豊かなまち

◆循環型社会システムへの転換と持続可能な社会を目指し、堆肥舎新設による生ごみ堆肥の量産化を契機として、生ごみ分別収集の全市への展開と生ごみ堆肥の普及を目指す。

勅使池の保全・活用 — 後世に感謝される湖的な風景づくり

◆自然環境が最大限生かされた勅使池整備が実現するように、様々な提案を市民レベルで発信する。

勅使池の活用プラン — ホップ ステップ ジャンプ de プレイパーク

◆整備された勅使池を、自然について学ぶことから環境に関する実践・体験・遊びまで一貫してできる場として活用し、市民主導で運営・維持・管理を行う。

身近な公園・ため池の再整備・有効活用

◆少子化・高齢化が進むなかで、公園やため池を有効に活用するため、身近な公園・ため池を地域住民自らが整備・維持管理、有効活用し、住民相互のふれあいにつなげる。

第2部会

「わいわいがやがや」考えてみよう! やってみよう! とよあけ防災訓練

◆市民一人ひとりが災害に対する危機意識と防災への関心を高めるため、多くの地域住民がわいわいがやがや楽しみながらも真剣に参加できるような防災活動を実施する。

防災・防犯訓練は地域の年中行事に～活動の持続性に向けて～

◆自主防災組織や防犯組織の活性化を図るために、毎年度、具体的な活動目標を立て、年間行事のカリキュラムを作成して実施する。

地域の集会所なども避難所(待避所)として活用

◆地区集会所や老人憩いの家など、高齢者や障害者でも容易に避難することができるより身近で家庭的な雰囲気のある地区施設を避難所(待避所)として活用する。

犯罪防止・地域セイフティネット

◆増加している空き巣や路上犯罪などに対する市民の自衛策や防止策として、町内会や市民グループなどが主体となって、防犯活動を展開する。

「防犯連絡所」&「子ども110番の家」連絡・通報体制の見直し強化

◆いつ何時でも対応できるよう、「防犯連絡所」や「子ども110番の家」の周知と機能アップを図る。

地域単位の交通事故ゼロ運動

◆市内の交通事故を抑制するため、行政(市や警察)との連携を密にしながら、全ての住民が安全に通行できるよう、地域組織で交通安全活動を展開する。

第3部会

様々なスタイルでの世代間や地域住民同士のつながり

◆地域の住民同士が気軽に関わり合えるよう、あいさつ運動から徐々に発展する世代間、地域住民が交流を持てるような機会づくりを提供する。

地域みんなの居場所となる、使いやすくて親しみやすい(ホッとできる)サロン運営

◆近所つきあいの希薄化や地域力の低下を防ぎ、縁側的な空間を提供するため、気軽に集えるサロンを運営する。

気軽に何でも相談でき、心をはぐくむ「タウンセラー」

◆困り事や悩み事を相談出来る人や場所が少ない現状を踏まえ、それぞれの経験や能力を生かしたまちのカウンセラー「タウンセラー」として、互いの心を支え合うことをめざす。

地域活動へのソフトランディング「生きがい教室」の開講

◆団塊の世代を始めとする元気な高齢者がこれまで培った知識と経験を地域社会に還元するプログラムを構築する。

地域の特性を活かした活動団体の再編成と支援、団体間のコーディネート

◆ボランティアグループの支援施策や各種ボランティア養成講座の開催案内、現在活動している団体の活動状況などを相互に情報を交換できる場を提供する。

みんなの活動をつなぐ市民情報サイトの充実

◆市内各地域において様々な活動をしている団体、組織、企業の状況の実態を整理し、地域の活動についての情報を共有するため、市民情報サイトを開設し、各種情報発信や市民の行政に対する提言や相談の仕組みをつくる。

使いやすい施設しくみをチェンジ～公共施設を市民管理に～

◆公共施設の利用を活性化するとともに維持コストを削減するため、市民と行政が互いの創意工夫により公共施設の管理を分担して行う。

5 街頭インタビュー調査（職員によるPTと協働）

公募による職員プロジェクトチームが企画した街頭アンケートキャラバンに市民まちづくり会議のメンバーも協力しました。

6 総合計画審議会への委員参画

豊明市総合計画審議会条例に基づき設置された総合計画審議会に、市民まちづくり会議から3名を選出し、市民委員として参画していただきました。

7 市民懇話会

基本構想を中心に本計画の概要等を説明し、地域の方々からまちづくりの要望等をお聞きするため、市内3中学校において市民懇話会を開催しました。

2005年6月18日（土） 午前10時～12時	沓掛中学校	27名
2005年6月18日（土） 午後2時～4時	栄中学校	67名
2005年6月19日（日） 午後2時～4時	豊明中学校	34名



総合計画審議会



8 パブリックコメント

本計画の素案を公表し、市民の皆様から幅広いご意見・ご要望等をお聞きするため、パブリックコメントを実施しました。

〈実施時期〉 2005年7月1日（金）～2005年7月31日（日）

〈実施方法〉 基本構想及び基本計画素案に対する意見聴取

各素案は市ホームページ及び企画政策課窓口、素案概要資料は市内公共施設に設置

ホームページでの意見提出は専用電子フォーマットにて直接送信

〈意見総数〉 87件

職員参加による策定

豊明市経営戦略会議

庁内策定体制の最高意思決定機関として、各種調査結果の分析、骨格的な将来展望の検討、重要政策の抽出、部門別計画案の調整等を行った。

平成17年10月1日 現在

()は前任者

■ 市長	都築 龍治	■ 企画部長	戸田 修 (大河内育夫)	■ 経済建設部長	山崎 力 (伊藤 太郎)
■ 助 役	石川 源一 (永松 浩二)	■ 総務部長	野村 義二	■ 消 防 長	近藤 和則 (伊藤 正樹)
■ 収 入 役	辰野 勝五	■ 市民部長	後藤 学 (石川 源一)	■ 議会議務局長	川村 敏治
■ 教 育 長	青木 三芳 (加藤 信彦)	■ 健康福祉部長	寺嶋 正男 (桑原 正敏)	■ 教育部長	野田 誠 (戸田 修)

課 長 会 議

基礎調査に基づく主要課題の分析から、基本構想及び基本計画素案全般に渡る範囲までの調整を行った。主にサイバー課長会議として横断的なネットワーク上での議論を行い、全ての調整結果を経営戦略会議に提出した。

平成17年10月1日 現在

()は前任者

■ 人事秘書課長	竹原寿美雄	■ 環 境 課 長	青木 和司	■ 消防総務課長	阪野 周二
■ 企画政策課長	宮田 恒治 (野田 誠)	■ 社会福祉課長	東 洋	■ 消 防 署 長	加藤 義久
■ 総 務 課 長	平野 隆	■ 高齢者福祉課長	高井 義正 (寺嶋 正男)	■ 議 事 課 長	神谷 清貴
■ 財 政 課 長	山本 末富 (宮田 恒治)	■ 児童福祉課長	畑中 則雄 (高井 義正)	■ 学校教育課長	加藤 誠 (小島 勝)
■ 税 務 課 長	都築 良直 (山本 末富)	■ 健 康 課 長	浜島 義和	■ 指 導 室 長	圓山 宏行 (安藤 昭二)
■ 収 納 課 長	杉浦 孝任	■ 産 業 振 興 課 長	柴田二三夫	■ 生涯学習課長	野々山 泉
■ 防災安全課長	佐藤 政光	■ 土 木 課 長	犬塚 豊和 (三治 金行)	■ 文化会館長	竹本 勝徳
■ 市民協働課長	神谷巳代志	■ 下 水 道 課 長	高橋 芳行	■ 体 育 課 長	加藤 慎
■ 市 民 課 長	近藤 敏幸 (近藤 和則)	■ 都 市 計 画 課 長	三治 金行 (山崎 力)	■ 図 書 館 長	小島 勝 (近藤 敏幸)
■ 保険年金課長	外山 博保 (後藤 学)	■ 出 納 室 長	近藤 伸之	■ 監査委員事務局長	稲垣 誠治

策定部会第1期シナジーワークショップ(平成15年度)

部門別計画を6つのバルーンに分類した3次総合計画の体系に対応する部会で旧計画期間内の全ての施策を検証し、成果と課題、改善すべき方向を分析した。

平成15年10月1日 現在

()は前任者

◆第1部会 都市基盤、産業・労働

商工課 課長補佐兼商工振興係長	内藤 和雄	都市計画課 計画建築係長	成田 泰彦
環境課 課長補佐兼環境保全係長	加藤 慎	都市整備課 公園緑地係専門員	朝岡 正志
都市計画課 課長補佐兼街路・用地係長	原田 昇	土木課 課長補佐兼道路係長	犬塚 豊和
都市整備課 公園緑地係長	前田 鏡	維持管理課 維持係長	近藤 通
土木課 農業土木係長	高橋 宏文	庶務課 行政係長	福井 康夫
下水道課 課長補佐兼工務係長	志賀 正夫	企画課 企画調整係専門員	石川 順一
児童課 指導保育士	五味 一子		
農務課 農地係長	青木 隆夫		
保健センター 保健予防係長	堀 哲夫		
生涯学習課 青少年女性係長	加藤 新平		
議会事務局 議事係長	成田 宏		
出納室 室長補佐兼出納係長	鈴木 恵一		
監査委員事務局 監査係長	六辻 澄男		
企画課 情報推進係専門員 (課長補佐兼情報推進係長)	鈴木美智雄 土井 進)		

◆第3部会 安全・安心、福祉・健康、行財政

保険年金課 課長補佐兼保険係長	外山 博保
収納課 課長補佐兼管理係長	荒川 実
庶務課 課長補佐兼防災安全係長	加藤 孝義
総務課 課長補佐兼庶務係長	神野 幸夫
福祉課 高齢者係長	森 弘和
保健センター 保健予防係専門員	岡田 恵子
児童課 課長補佐兼児童係長	奥田 清
都市計画課 計画建築係専門員	古橋 直美
維持管理課 管理係長	神谷 明裕
環境課 環境保全係専門員	石川 広
市民課 戸籍係長	神谷 元弘
財政課 財政係長	荒川 恭一
税務課 課長補佐兼土地係長	奥村 俊行
秘書課 人事係長	加藤 隆之
企画課 課長補佐兼企画調整係長	横山 孝三

◆第2部会 教育・環境・文化・学習

生涯学習課 課長補佐兼生涯学習係長	黒田 純市
学校教育課 庶務係長	酒井 秋光
給食センター 中央調理場長	中野 和博
文化会館 文化振興係長	加納 晃
体育課 体育係長	星野 雅彦
図書館 図書係長	堀井 健次
環境課 リサイクル係長	塚本 邦広
商工課 観光消費生活係長	松田 幹雄
福祉課 課長補佐兼福祉係長	高岡 誠治

策定部会第2期シナジーワークショップ(平成16年度・17年度)

第1期による分析結果を基に、新計画での取り組むべき施策の抽出と体系化、成果指標の設定を行った。また、各課でのワークショップを牽引し、ここで得られた課題と目指す将来像を部門別計画の策定の基盤とした。

平成17年4月1日 現在

()は前任者

◆第1生活環境 部会

防災安全課 交通防犯担当係長	村瀬 一幸
収納課 管理担当係長	山崎 和雄
環境課 環境保全担当係長	石川 広
環境課 リサイクル担当係長	石川 晃二
下水道課 治水担当係長	市川 一成
都市計画課 計画建築担当係長	成田 泰彦
消防総務課 予防担当係長	日比野 栄

◆第2保健福祉 部会

市民課 住民情報担当係長	近藤 正純 (近藤 雅彦)
保険年金課 医療担当係長	神谷 則子
社会福祉課 障害福祉担当係長	兼子 公司
高齢者福祉課 認定担当係長	吉井 徹也
児童福祉課 子育て支援担当係長	原田 一也
児童福祉課 児童担当係長	星野 雅彦
健康課 母子保健担当係長	加藤 育子

◆第3都市基盤・産業振興 部会

産業振興課 農地担当係長	浅井 健治
産業振興課 観光・消費生活担当係長	松田 幹雄
土木課 道路整備担当係長	堀田 彰
土木課 農業土木担当係長	山田 佳充 (高橋 宏文)
都市計画課 街路用地担当係長	坪野 順司
都市計画課 公園緑地担当係長	朝岡 正志
監査委員事務局 監査担当係長	平野 幸子
出納室 出納担当係長	松林 淳

◆第4教育文化 部会

学校教育課 庶務担当係長	福井富三男 (酒井 秋光)
学校教育課 栄調理場担当係長	中野 和博
生涯学習課 生涯学習担当係長	奥村 幸成
文化会館 文化振興担当係長	加納 晃
体育課 体育振興係専門員	青木 精司
図書館 図書担当係長	鈴木 一生
税務課 家屋担当係長	竹中 道尾

◆第5交流・市民参画、計画推進 部会

人事秘書課 人材開発担当係長	土屋 正典
人事秘書課 広報担当係長	馬場 秀樹
企画政策課 政策推進担当係長	石川 順一
企画政策課 情報化推進担当係長	鈴木美智雄
総務課 法規担当係長	神谷 明裕
財政課 契約検査担当係長	越山 輝夫
市民協働課 市民活動振興担当係長	浜島 吉孝
市民協働課 都市・国際交流担当係長	伏屋 一幸
議事課 議事担当係長	成田 宏

第1期職員プロポーザルプロジェクトチーム(平成15年度)

職員の提言提案を基盤にして日常業務改善運動を軸に研究を行った。全職員への改革意欲の向上を目的と定め、さらに新規の行政需要の事業構築を自由な発想から研究し、経営戦略会議に提言した。

平成15年10月8日 現在

福祉課 介護保険係主事補	和田 真人	児童課 保育係栄養士	原田 佳子
保険年金課 保険係主事補	浦 倫彰	市民課 市民係主事補	松本 小牧
都市計画課 計画建築係技師補	北川 宜志	環境課 環境保全係主事補	山田 智香
保険年金課 保険係主事補	嶋田 聖子	収納課 管理係主事補	若井 雅宏

第1期民間・市民セクター協働事業検討プロジェクトチーム(平成15年度)

NPMの視点に立ち新規の行政需要からの事業構築やスリム化の動向を自由な発想から研究することを目的とし活動した。コスト視点で合理化可能な事業を抽出し、顧客満足度視点では効率化・特化可能な事業の抽出を行い経営戦略会議に提言した。

平成15年10月8日 現在

都市整備課 区画整理係専門員	近藤 潔	下水道課 業務係主査	下山まゆみ
庶務課 行政係主査	藤井 和久	議会事務局 議事係主査	橋本 正恵
企画課 情報推進係主査	宇佐見恭裕	都市計画課 計画建築係主査	夏目 和茂
企画課 情報推進係主査	小串 真美	保健センター 保健予防係主査	望月 典子
生涯学習課 生涯学習係主査	桑 和広		

第2期職員プロポーザルプロジェクトチーム(平成16年度)

職員の提言提案を基盤にして日常業務改善運動を軸に実行プログラムを研究した。全職員への改革意識の共有化、改善意欲の向上を目的と定め、その基盤となる主体的な取り組みを多角的に展開するよう経営戦略会議に提言した。

平成16年7月20日 現在

環境課 リサイクル係主事	古井 慎一	保険年金課 年金医療係主事補	澤田 奈美
保険年金課 保険係主事補	浦 倫彰	市民課 市民係主事補	釋 法子
体育課 体育振興係主事補	枝吉 三和	産業振興課 農務係主事補	矢野 優
税務課 家屋係主事補	小田嶋絢子	収納課 収納係主事補	若井 雅宏

第2期CSマーケティングプロジェクトチーム(平成16年度)

市民との意見交流を基盤にして行政課題の把握をし、潜在的な行政需要の開拓や多面的効果のある新規事業を研究した。組織的なマーケティング力の向上に寄与することを目的と定め、積極的な市民交流、需要調査を展開し全ての結果を経営戦略会議に提言した。

平成16年7月20日 現在

税務課 土地係主事補	青山 康徳	人事秘書課 秘書係主事補	狩野 裕子
保険年金課 保険係主事補	杉野 愛	高齢者福祉課 介護保険係主事補	波木 裕子
下水道課 維持業務係主事補	荒川 裕子	児童福祉課 児童係主事補	三岡 愛

第2期民間・市民セクター協働事業検討プロジェクトチーム(平成16年度)

NPMの視点に立ち市民起点での需要構築やスリム化の動向を全体的な視座から研究することを目的とし調査研究を行った。コスト視点で合理化可能な事業を抽出するとともに、行政の質的向上や市民との「協働」「役割」の共有化を創出することを目指し、経営戦略会議に提言した。

平成16年7月20日 現在

出納室 出納係出納担当係長	松林 淳	企画政策課 情報管理係主事	鈴木 香織
市民課 市民係主事	松本 小牧	保険年金課 保険係主査	深谷 忠
学校教育課 庶務係主査	加藤 健治	土木課 維持管理係専門員	水野 好枝

策定事務局

平成17年10月1日 現在

()は前任者

企画部次長兼企画政策課長	宮田 恒治	企画調整担当係長	浅田 利一
(企画部次長兼企画政策課長	野田 誠)	(企画調整係専門員	松林 淳)
企画課長補佐(政策推進担当)	横山 孝三	政策推進係主査	伊藤 正弘
政策推進担当係長	石川 順一	政策推進係主事	浦 倫彰
		(政策推進係主査	塚田 力)

◆調査機関 社団法人地域問題研究所

調査研究部長	杉戸 厚吉	研究員	河北 裕喜
主任研究員	加藤 栄司		

「プロジェクトチーム」調査研究活動の取り組みと成果

1 設置の目的

公募職員による庁内横断型の調査研究機関として設置されたプロジェクトチームは、三つの視座から調査研究を行い、その成果を経営戦略会議へ提言していくことで柔軟な視点、全体的・長期的視点をより意識した計画とすることを目指しました。また、活動は庁内に留まることなく、市民との積極的な交流、民間企業等の取り組みへの積極的な学びを可能にしました。

これまでの策定体制にはないこうした取り組みは、主体的な職員の関わりを醸成して、計画策定後の計画推進にも貢献する運動につながるものと考えています。

2 活動の概要

「職員プロポーザルプロジェクトチーム」は、業務改善運動を立ち上げ全職員への改革意識の共有化を図り市民に期待される自己責任型職場風土づくりを推進することを目指しました。

「CSマーケティングプロジェクトチーム」は、市民との意見交流を基盤に行政需要の開拓や新規事業を研究し、組織的なマーケティング力の向上に寄与することを目指しました。

「民間・市民セクター協働事業検討プロジェクトチーム」は、ニューパブリックマネジメントの視点から市民起点での民間セクターへのシフト動向を研究し、合理化追求だけではない行政の質的向上を目的に定め、市民との協働、役割の共有化を目指しました。

活動は積極的に現場を認識することを心掛け、先進自治体等の事例や市民活動の現場視察、さらに民間製造業やサービス業における改善改革ソリューションの視察をしました。また、市内事業所との意見交流など協働の可能性を探るだけでなく、まちづくりへの互いの課題認識を図りました。

街頭インタビューキャラバンでは、多様な市民の方々から貴重なご意見を伺うとともに、市民まちづくり会議にも積極参加し、ともに議論を重ねることができました。

《第1期プロジェクトチームによる提言（要約）》

職員プロポーザルプロジェクトチーム	<p>「市民の思いが形になる街 豊明」～市民発、市役所経由、夢の実現行き～</p> <p>市民が主体となる活躍の場を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆市民と行政が役割分担を理解し、協働していくための新たな情報集約、意思決定システム「ひまわりシンクタンク」の設置を目指す。また、潜在的な市民のまちづくりへのやる気をネットワーク化する仕組みづくりとして「地域通貨」の構築、さらに地域自治力を高めていく相乗効果発揮の機会として地域ごとの取組みを学びあうイベントの開催を目指す。 <p>行政内部の改善改革を組織の風土へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆市民、現場に近いところで意思決定が行われ実行力を高めるため「カンパニー制」に一部移行するような権限委譲の組織改革が必要。また組織を構成する職員の質的向上と責任能力が相乗効果をもって高まって行くことが何より重要。小さな改善活動から認め合い、学び合いをしていく「業務改善運動」を実施していく。情報の共有、交流を図り触発の機会となる「オフサイトミーティング」の実施や、個々のキャリアデザインとスキルアップと全体のスペシャリスト確保を行う等の制度拡充が必要
民間・市民セクター協働事業検討プロジェクトチーム	<p>「民間・市民セクター協働事業検討PT提言」</p> <p>まず、自分たちの常識を省みる</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆長期の財政シュミレーションを仮定し、最悪のシナリオを描いてみることで職員自らの認識を改めていく、改革が不可避であるという共通認識が必要 <p>どんな方策でサービスの質的改善を目指すのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆協働の前提を構築するための「アダプトプログラム」の実施、子どもを核とした地域活動の活性化を促す拠点創出のための「児童館の多様な活用や、保育園の民営化」を検討する。また、住民自治、地域自治力が試されていく今後を見据え、「地域自治組織への分権」という課題への取り組みや、指定管理者制度、広域的な行政活動から人材確保、情報の効率的な活用を図る等の総合的な質改善を展開して民間・市民セクターへのシフト、協働に寄与していく。

《第2期プロジェクトチームによる提言(要約)》

職員プロジェクトチーム	<p>「豊明市の人と組織の改革」～自己変革型職員を目指して～</p> <p>組織と改革姿勢をビジョンの体系へ</p> <p>◆目指すべき方向をビジョンとして明確化し、ミッション、行動指針までの体系化が必要。この共通認識によって職員一人ひとりが役割を自覚し、様々な立場にあっても一丸となって目的達成に向かっていくことができる。「スタンダードTOYOAKE」としてのビジョンの規定を目指す。</p> <p>日常の改善改革のあり方を構築</p> <p>◆ビジョンの確認励行等日常化活動の展開を目指す。職員向け情報誌等発刊して、一層の情報共有とビジョンの深化を図る。またサービス提供の基本となる笑顔があふれる職場づくりを推進する「スマイル接客運動」を広く展開する。</p> <p>改革のエンジンを設計し、職員参加で始動</p> <p>◆各所属で改善活動を行い、その成果を学びあい認め合う「業務改善運動Good Job ショー」を実施する。職員の主体的な活動でやる気に満ちた改善改革風土を広げていく。</p>
CSマーケティングプロジェクトチーム	<p>「愛と魅力あふれる、自立した豊明をめざして」～市民満足度を高めるために～</p> <p>豊明ブランドの必要性</p> <p>◆市民と市行政の関係は協働となっていく。協働は市民満足の向上のためにある。そのためにまちを愛するパートナーづくりを戦略的に展開する。職員は市民起点で現場志向のマーケティングを行い、戦略的なプロモーションとともにブランド構築を進めていく必要がある。</p> <p>声を聞き、反映させるシステムの構築</p> <p>◆ビフォアPRとしての情報の積極的な提供を行い、サイレントマジョリティを意識した市民起点でのリサーチ活動を展開する。</p> <p>戦略的ブランドづくりとPR活動の展開</p> <p>◆地域間のつながりを強め、誰もがわくわくする活気あるまちづくりに寄与するブランドを創出していく。地域力を高め、将来にわたるにぎわいにつながる商店街の活性化や、花のまちを目指す。</p> <p>チェンジ市役所、発想の転換を</p> <p>◆ゆめやビジョンは形となったら積極発信しブランドイメージにまで高めていくことが重要。これからの職員は稼ぐ市役所という視点も含めて多様な発想で知恵の出し合いに挑戦していくことが求められる。</p>
民間・市民セクター協働事業検討プロジェクトチーム	<p>「豊明市の行政経営に関する提言」～豊明自立化計画～</p> <p>自立化計画6つの視点と行政経営のあるべき方向性</p> <p>◆自立化計画の6つの視点として「危機感の徹底」「外向きの改革」「もたざる戦略」「内なる動機付け」「最後のチャンス」「トップの英断」を提言。その上で危機意識の共有を図り、中長期的な財政計画に始まる人・モノ・カネの再編をニューパブリックマネジメントの視点で総合的に提言</p> <p>具体的な方策</p> <p>◆財政状況の現状と厳しい予測を客観的に検証し、改革への取組みの必要性を「財政の現状と見込み」として、また、アウトソーシングの本義を定義し「アウトソーシング計画」としてその方法と課題を体系整理した。選択と集中、そしてスピードが求められるのは個々の職員と業務にあることから仮説として「業務棚卸の検証」を試算した。さらに組織の価値を高めるための人材の調達確保、人材開発、人材活用を「人材マネジメント計画」として提言。「市と市民の新たな関係」としては協働推進のための課題と人材バンクや支援ファンドといった環境整備について提言した。「児童館の多目的化と保育園の民営化」検討については行政パートナー制度等による活用の可能性と民営化への情報共有と納得のある議論が求められる。</p>



PTのキャラバンのようす

総合計画審議会

第4次豊明市総合計画審議会委員

敬称略順不同
()は前任者

条例の規定	氏 名	備 考
市 議 会 議 員	鈴木 勝喜 (関 勝男) 成田 洋司 福島 鏡 堀田 勝司 松山 廣見 三浦 孝文 山盛左千江	議長(審議会会長)
教育委員会 の 委員	近藤 裕治	教育委員会
農業委員会 の 委員	鈴置 正安 (鈴木 正人)	農業委員会
市内の公共的団体の役員	鈴木 正人 (相羽 幹夫) 伊藤 幸雄 加藤 和治 佐脇 正之 都築 和男 長谷川武史 深谷たゑ子 安部 隆明 (安井 恒雄)	あいち尾東農協 文化協会 商工会(審議会副会長) 東名古屋医師会豊明支部 社会福祉協議会 青年会議所 連合婦人会 体育協会
学識経験を有する者	太田 福男 (加藤 琢也) 水野 純治 (岸川 輝彰) 後藤 保正 外山 半三 山内 正子	都市計画審議会 藤田保健衛生大学 経済懇話会 愛知県議会議員 とよあけ生活学校
その他市長が必要と認める者	伊藤 和恵 刈谷 美春 小菅もと子	市民まちづくり会議

総合計画審議会委員諮問・答申

豊企第35号

平成17年4月19日

豊明市総合計画審議会

会長 関 勝男 様

豊明市長 都築 龍治

第4次豊明市総合計画について(諮問)

豊明市総合計画審議会条例第2条に基づき、第4次豊明市総合計画について、貴審議会の意見を求めます。

平成17年11月10日

豊明市長 都築龍治 殿

豊明市総合計画審議会

会長 鈴木 勝喜

第4次豊明市総合計画について(答申)

平成17年4月19日付け豊企第35号にて諮問のありました第4次豊明市総合計画については、本審議会にて慎重に審議をした結果、諮問案を妥当と認めます。

なお、計画の推進におかれましては、この答申を尊重して、市民との協働を図り、各施策の重要度を審議し、効果的な成果が得られるように努め、豊かな自然に恵まれた住みやすい安心都市の実現に努められるよう要望いたします。

